

平成 29 年度 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の自己点検・評価

2017（平成 29）年 11 月 7 日、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に、本学が申請していた事業プランが選定され、今後 5 年間にわたって助成を受けることになった。前年度から始まった本事業は、各大学が将来ビジョンを明確にしつつ、研究をベースに事業を実施・推進し、「他に抜きん出た」ブランド大学に構築していくよう支援するものである。本学が申請した「地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する」ことを目指すタイプ A には、123 大学の応募があり 33 大学が（26.8%）、また、人文・社会系に限れば 80 大学から 18 大学が選定（22.5%）された。

本学の事業プランは、地元自治体・企業、医療機関などと連携して、健康づくりを企業で働く現役世代にまで拡げ、企業と従業員の健康リスクを軽減し、医療費や健康保険料の抑制・削減を図ろうというものである。また、関連するヘルスツーリズムを企画・実施して宿泊施設利用者を増加させることや、健康づくりに関連するソフトや機器類などの開発と、それらを商品とする事業化や起業なども視野に入れて取り組みを進め、総体として「元気な地域づくり」に繋がり、推進することを目指す。

以上、本学研究ブランディング事業の選定結果並びに目的を確認した上で、2017（平成 29）年度の取り組みについて以下に述べる。

（1）年度当初の計画・目標＜P＞

今年度の計画・目標は、提出した「平成29年度私立大学研究ブランディング事業計画書」に記載されているように、①エア・ウォーター(株)の従業員に対する各種測定と運動指導の実施及び医療費データの整理、②(株)池の平ホテル&リゾートの担当者と活動量計の個人設定及び指導計画の確認、③ (株)池ノ平ホテル&リゾートの宿泊者に対する運動指導に関する聞き取り調査と結果整理、④松本市「健康経営研究会」加入企業の中から選定した協力企業の経営者と従業員に対する説明と理解、⑤全参加企業のメンタル面の不調による休退職者数の把握と整理、⑥松本市立病院の人間ドック担当者及び宿泊施設の梓水苑の責任者に対する本事業の説明と理解及び取組に関する合意、⑦松本地域のヘルスツーリズムに関する実態調査の企画・実施、⑧主として企業経営者を対象としたエア・ウォーター（株）と（株）池の平ホテル&リゾートの宿泊を伴う運動指導の体験ツアーの企画・実施、⑨次年度に実施する健康づくりと健康関連産業に関する公開講座の企画、⑩上記公開講座の告知を中心に、本事業に関する広報に適切に取り組む、⑪本事業に関するテレビ番組ないしはプロモーションビデオの収録・放映、など11項目について取り組み実績を上げていくことである。

（2）実施状況 <D>

当事業の年度当初の計画・目標は上記のとおりであるが、選定を受けたのが11月7日であったため、まずは、同月22日に開催された「平成29(2017)年度 第7回全学協議会」において、本学の申請案件が選定されたことを報告するとともに、推進・実施体制及び平成29年度内の取組について案を示し、審議、了承を得た。その後、12月7日と平成30年3月8日に、教員及び事務職

員より選定した推進委員11名、協力員5人からなる「松本大学 研究ブランディング事業推進・実施委員会」を開催し、主として下記のような取組を進め成果とすることができた。

- ①選定前から試行的に行っていた、エア・ウォーター(株)の従業員に対する各種測定と運動指導の実施及び医療費データの整理ができ、対象者が15名と少なくはあるものの、医療費の削減という成果を確認した。
- ②(株)池の平ホテル&リゾートの宿泊者に対する運動指導の取組態勢を整えた。
- ③次年度以降の本格実施に向けた人的補充・整備及び推進室の設置などに取り組み、その全てを整えた。
- ④事業計画に記載した各種測定機器類について、業者と具体的な選定・調整作業を進め、予定どおり購入することができたことにより、機器類の面でも実施体制を整えた。
- ⑤研究ブランディング事業キックオフ・シンポジウムの開催について、期日（平成30年5月24日（木）午後3時～）、内容（基調講演、パネルディスカッション等）などを決定した。
- ⑥本事業の核となる運動指導・栄養指導・メンタルケアの各分野の担当者間において、本事業について共通理解を図り、それぞれの任務と役割分担を明確にした。

（3）活動に対する点検・評価 <C>

- ①上述のように、事業推進・実施委員会を立ち上げ、次年度からの本格実施に向けて機器類や人的補充など実施体制を短期間に整備できたことは高く評価できる。
- ②研究部門本事業の核となる健康づくりに関する運動指導・栄養指導・メンタルケアの各分野の担当者間において、それぞれの任務と役割分担を明確にでき、次年度以降の研究をスムーズに行う下地ができた。しかしながら、当初予定していたヘルスツーリズムの実態調査については手が付けられず、次年度の課題となった。
- ③ブランディング部門本事業に対する全学的な理解、共有意識は必ずしも十分とはいえない状況にある。
- ④その他、申請書に記載したプロモーションビデオの作成については、推進・実施委員会で検討した結果、実際の塩津場面を収録して作成した方がよいだらうとの意見が大半を占めたため、次年度以降の課題とした。

（4）次年度に向けて <A>

次年度に向けては、上述した今年度未達成にであった点を点検し実施に移すとともに、「平成29年度私立大学研究ブランディング事業計画書」に記載した当初計画の遂行に注力する。その項目は、以下のとおりである。

- ①エア・ウォーター(株)・(株)池の平ホテル&リゾート両社の従業員に対する測定と運動指導の継続及び医療費データの整理
- ②新たに参加する企業従業員に対する体力測定と運動指導の実施及び活動量計データの整理
- ③松本市立病院の人間ドック利用者の中の運動の必要性を指摘された受診者を対象とする宿泊施設の梓水苑を利用した宿泊を伴う健康指導の実施

④③の結果を踏まえた他の医療機関及び松本市郊外浅間温泉の宿泊施設を対象とする本事業への参加要請の企画と実施

⑤応募した医療機関と宿泊施設に対する本事業の内容説明

⑥今次の取組を内容とするヘルスツーリズムの可能性に関する検討・研究

⑦本事業に参加した企業における「健康経営」の効果分析

⑧健康づくりと健康関連産業に関する公開講座の企画と実施

⑨本年度が事業の中間年であることを念頭に、研究・事業の実施状況及び、事業に関する周知と長野県内における認知度などについての情報収集と分析

<執筆担当／松本大学研究ブランディング事業推進委員会 委員長 等々力 賢治>